

一所に置かない様に渡つたといふことです。

どういふ方法で越したのでしようか、よくお考の上御申込みを願ひます。

申込所 三河國西加茂郡筋生村字黒笹

近藤とさ子あて

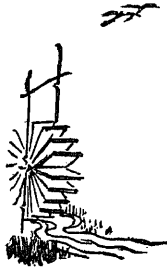
解答紙 随意、但順序を簡單明瞭に記すべし

申込期限 八が五日限とす

披露 九月發行の『婦人と子ども』紙上

以上

近藤とさ子白



家庭



家庭教育上婢僕的位置

家庭教育の上で、母の感化の價値の最も大なることは言ふまでもない。柔順とか、温和とか、謹慎などのいろ／＼の道德の要素は、多くは母の感化の賜である。而して父の感化は之と并んで、又大なる効果を與へる。所謂強固なる品性の成立とか不撓の勇氣とか、明確なる理性等は即父の勢力を待つて、始めて完成すべきものである。だからして眞誠に家庭教育の圓滿の効果を完成するには

父母の感化決して其一を缺くことが出来ない。男の子にしても、女の子にしても、理屈は同じことである。

然し、こゝで注意すべきことは、父母は家庭教育上最も必要な最も重大な感化を子供に與へるものには相違ないが、而も父母丈けが、家庭教育上唯一の要素ではない。語を詳にすると、家庭に於て教育的感化を與へる者は、獨り父母丈けでない所に住居する所の家族も皆それ〳〵感化を與へる所の勢力たるものである。勿論其他の家族の感化の勢力は、到底父母ほどは、強力だとはいへない、然しながら、若し夫等の感化が、反對に悪い方へ導く所の勢力を與へるものであつたとすれば夫がために、父母の善良な感化は、頗る其勢力を殺滅せられるのは明である。

此點から考へて大に注意せなければならぬのは、各自の家の婢僕である。もとより乳母となつて見ると、雇ひ入れる方でも、其身體上より、精神上よりから、いろ〳〵注意して調べた上で、雇ふといふことは言はないでも、分り切つた事であるが、夫でなくつて、たゞの御飯たきとか、仲働きとかいふものになると、格別直接に子供の教育上に關係するのでないから、雇ひ入れる方でも餘り選擇に注意などしない傾である。然しながら、直接に子供の教育に關係しないからといつても、先づ普通の家庭に於ては、朝夕、子供等が、彼等と交はるといふことは、どうしても避けることが出来ない、交はることが避けられないとすると、よかれあしかれ、彼等の感化を少しでも受けない譯には行かないのである。

そこで、今日の場合に於て、下婢の状態といふものは、最も多數は無學無智で、丸で無教育の者だといつてよい、地方では殊に、左様だが、東京でも矢張同様である、其口にする所の談話といひ其歌ふ所の俗謡といひ、何れも野卑極まるのである、而して、子供等が彼等に接する毎に見まね、聞きまねで化せられるとすれば、其教育上にとつて、どれ程の悪影響を受けるかは言はずして明である。

殊に時々經驗する事だが、幼稚園などへ附き添うて来る下婢等が幼稚園の控室で、勝手に野卑な俗謡などを歌つて居る、或は、子供を載せて來た車夫などが、同じことをやつて居る、夫を聞き覺えてか子供等が、又歸るさに同様な俗謡を歌つて居る、幼稚園では、格別此の様な俗謡は注意して

禁じる、父母もまさか教へることはあるまい、而して彼等は無邪氣な幼心に、之を吹き入れるのである。

か様なことは、只だ彼等が無教育であるからといつて棄て置く譯には行かない、苟くも家庭教育の上を心に傾くる人は、是非とも又、此事に注意をして、此悪感化を避ける様に心を盡さねばならぬ。即ち、其が爲にはどうしても、家庭に於て彼等を教育してやる、面倒を見ねばならぬ。出來る丈け彼等を教育して、彼等に智識を與へ、彼等の思想を高尙にし、純潔にしてやることは、即ち此悪感化を避け得る所以であつて、夫と同時に又、憐むべき彼等に對する義務であらうと思ふ。